

和歌山病院での実習を終えて



小林 真生

今回、第三内科における臨床実習の一環として、1月22～23日の二日間、和歌山病院にて実習させていただきました。

南方院長先生のセミナーでは胸部X線の読影について教えていただきました。X線の原理や解剖などの基本的な知識から読影方法を教えていただいたことで、胸部X線の見方を深く理解することができました。私自身、胸部X線に対する苦手意識が強く、「どこを見たらいいのか」「肺の血管と結節はどのように見分けたらいいのか」いつも悩んでいました。しかし、先生のお話を聞いてから見るべきポイントがわかり、受け持ち患者さんのX線を見るのが楽しくなりました。また、先生が繰り返しおっしゃっていた「覚えるのではなく、考える」という心構えも、これから医学生・医師として成長していく過程で忘れてはいけないなと感じました。

駿田副院長先生には結核について教えていただきました。「なぜ結核は空気感染だけなのか」「もし外来に結核疑いの患者さんが来たらどう対応するのか」など、いままで丸暗記していた結核の基礎的な知識を臨床と照らし合わせて教えていただき、とてもためになりました。また、N95マスクをつけて結核病棟の見学もさせていただき、結核患者さんの入院生活を垣間見ることができました。学生のうちにN95マスクをつけて病棟や病室に入る機会はないので、貴重な体験をさせていただきました。

最後になりましたが、ご多忙の中熱心に指導してくださった南方院長先生、駿田副院長先生をはじめとする先生方、また実習の準備やサポートをしてくださった職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。和歌山病院での実習は勉強になるだけでなく、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。